

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：32420

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K14014

研究課題名（和文）体育授業を支援する基本的な動きに関する指導資料の作成と検討

研究課題名（英文）Creation and examination of a teaching resource on fundamental movements to support physical education classes

研究代表者

篠原 俊明（SHINOHARA, TOSHIAKI）

共栄大学・教育学部・講師

研究者番号：20738306

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、体育授業を支援する指導資料を作成し、検討することであった。次の結果が得られた。体育指導に関する力量が高くない教員は、体づくり運動系の指導における困り事の認知が高く、様々な基本的な動きを取り上げにくいと考えていた。一般教員の授業は、マネジメント場面の多さ、MVPAの確保、動作の習得が課題であった。これらの結果をもとに指導資料を作成した。作成した指導資料を使用することで、介入教員の体育授業におけるマネジメント場面は少なく、MVPAは確保されていた。したがって、指導資料は教員を支援する資料であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

体育授業の実践を支援する資料は多数存在している。しかし、それらの資料は、エビデンスに基づいた内容とは必ずしもいえず、教員のニーズや授業実態に対応しているのか疑問が残る。本研究は、教員の意識の実感と体育授業の実態を把握したうえで、指導資料を作成し、検討するというスキームのもとで、指導資料の作成し、その有用性を明らかにした。本研究成果は、エビデンスをベースにした資料を作成することの必要性を示すとともに、実感・実態・実践というスキームを示したことは体育科教育学において重要な知見となった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to create and examine a teaching resource to support physical education classes.

The following results were obtained. Teachers who did not have a high level of capability in physical education were aware of the difficulties in teaching "Physical Fitness" and thought that it was difficult to deal with various fundamental movements. General faculty classes had issues with management episodes, ensuring MVPA, and acquiring basic movements. Based on these results, a teaching resource was created. By using the created teaching resource, fewer management episodes and MVPA were ensured in the physical education classes of general teachers. Thus, the teaching resource was a material to assist the teachers.

研究分野：発育発達学、体育科教育学

キーワード：体づくりの運動遊び 多様な動きをつくる運動遊び 指導資料 基本的な動き 体育授業場面 身体活動量

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19, F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

文部科学省が1964年以降毎年実施している「体力・運動能力調査」から、児童の体力・運動能力は、1985年を境に低下し、依然として低い水準にあることが見て取れる。子どもの体力・運動能力の低下の原因は、「身体活動量の減少」と「基本的な動きの未習得」であることが指摘されている(日本学術会議, 2017)。そして、2017年に改訂された小学校学習指導要領においては、体育科の目標として基本的な動きを身に付けることが明記されている。さらに基本的な動きを身に付けることをねらいとして、低学年では「多様な動きをつくる運動遊び」が「体づくりの運動遊び」領域に、中学年では「多様な動きをつくる運動」が「体づくり運動」領域に内容構成として引き続き位置している。したがって、児童が基本的な動きを身に付けられるよう、教員には動きや教材に関する幅広い知識や理解、それを活かして授業を展開する観察力・指導力が求められている。しかし、小学校体育には運動領域の検定教科書がなく、体育主任の経験がない教員や体育を研究教科としない教員は、体育の教材や運動に対する知識に対して悩みを抱え、そのような教員は専門書や体育関連雑誌を参照する機会が多いとされている(加登本ほか, 2010; 2011)。また、教職経験年数が少ない教員は、体育授業関連の専門書を活用する傾向が強いことも報告されている(佐藤, 2011)。これらのことから、体育指導に積極的に関与していない教員や教職経験年数が浅い教員が活用できる動きの習得を促す授業実践を支援する指導資料を作成することは、より良い体育授業の実践において重要な役割を担うと思われる。したがって、基本的な動きの習得を促すための指導ポイント、コツや声かけ、教材・教具や単元計画等を記載した教員の授業実践を支援する指導資料の作成は急務と考えられる。そして、指導資料の活用可能性を検証することで、児童のより良い体育授業の享受や体力・運動能力向上に寄与するものと考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、児童の基本的な動きを観察的に評価する方法を確立し、その知見をもとに授業実践を支援する指導資料を作成し、指導資料を授業に導入してその活用可能性を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 「体づくり運動系」に対する小学校教員の意識

対象：東京都内の小学校教員 271 名とした。

実施方法：Google フォームを用いたアンケート調査を行い、記入漏れがあった場合、返信できない設定とした。

質問項目：基本属性や体育への関わり方に関する項目に加え、「体ほぐしの運動(遊び)」と「多様な動きをつくる運動(遊び)」における「指導の困り事」、「使用する授業構想資料」、「授業構想参考資料に求める内容」と、「『多様な動きをつくる運動(遊び)』において取り上げやすい動き」を設定した(4件法)。

解析方法：対象教員を体育への関わり方に基づいて、体育指導の力量に関する4群に分類した。4件法の選択肢に1点から4点までの得点を付与した。得点を従属変数、力量の4群を独立変数、性と教職経験年数を共変数として共分散分析を実施した。

(2) 指導資料の作成

作成に向けた熟練教員と一般教員における「体づくりの運動遊び」の授業の特徴

対象：体育指導の力量が高い教員(体育熟練教員)1名と、体育部に所属せず体育主任経験がない体育指導に関する力量が高くない教員(一般教員)1名と、そのクラスの児童(熟練体育教員クラス：男子14名、女子14名、一般教員クラス：男子15名、女子14名)とした。

対象授業：児童の学年や施設、同一単元計画の使用(フープ回しを主運動とする単元計画を作成)など授業の前提条件を統制したうえで、2名の教員が実施した小学校1年生の「体づくりの運動遊び」の授業とした。

測定項目：体育授業場面、身体活動量、フープ回しの洗練化、教員の授業中の発話を測定・記録した。

洗練化の評価基準の作成：1年生から4年生までの児童585名を対象として、フープ回しを撮影し、先行研究(宮丸ほか, 1989; 金・松浦, 1998; 中村ほか, 2011; 篠原ほか, 2021)に倣いフープ回しの洗練化を観察的に評価する基準を作成した。

解析方法：各体育授業場面の単元の平均時間・頻度について対応のないt検定を実施した。身体活動量は、身体活動量を従属変数、クラスを独立変数、性、身長、体重を共変数、基本的な動きの動作得点は、性別に、単元後の動作得点を従属変数、クラスを独立変数、単元前の動作得点を共変数として共分散分析を実施した。

指導資料の作成

上記(1)で明らかになった「体づくり運動系」の授業に対する教員の意識や、上記の2名の教員の授業比較の結果、熟練教員の授業中の発話をもとに指導資料を作成した。

(3) 作成した指導資料の検証

対象：体育指導に関する力量が高くはない教員（一般教員であり、介入教員と表記）1名と、そのクラスの児童（男子17名、女子11名）とした。

対象授業：指導資料を用いて介入教員が実施した「体づくりの運動遊び」の授業とした。

測定項目：体育授業場面、身体活動量、フープ回しの洗練化、介入教員の授業中の発話を測定・記録した。

解析方法：各授業場面の単元の平均時間；頻度について対応のないt検定を実施した。身体活動量は、身体活動量を従属変数、クラスを独立変数、性、身長、体重を共変数、基本的な動きの動作得点は、性別に、単元後の動作得点を従属変数、クラスを独立変数、単元前の動作得点を共変数として共分散分析を実施した。

4. 研究成果

(1) 「体づくり運動系」に対する小学校教員の意識

「体ほぐしの運動（遊び）」と「多様な動きをつくる運動（遊び）」に共通した結果として、群は、群よりも「単元に関する知識」、「単元計画の作成」、「1単位時間の授業の流し方（組み立て方）」、「運動の師範」、「教員の不足」、「関連する副読本の不足」を困り事として認識していることが明らかとなった（表1）。このことから「体ほぐしの運動（遊び）」と「多様な動きをつくる運動（遊び）」に関係なく、体育部に所属せず体育主任経験がないといった体育指導に関する力量が高くはない教員（群）は、単元知識や単元作成、副読本の不足といった授業を構想する段階から、授業の流し方や運動の師範といった実際の授業実践に至るまでの全過程でより困り事を抱えており、このような教員に対しては授業構想から授業実践までをフォローしていくことが重要と考えられる。

表1 体育指導に関する力量別にみた内容領域別の指導における困り事

質問項目	体ほぐしの運動（遊び）								多様な動きをつくる運動（遊び）													
	群 n=30		群 n=54		群 n=46		群 n=187		群 n=30		群 n=54		群 n=46		群 n=187							
	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE						
単元に関する知識	2.1	0.1	2.2	0.1	2.3	0.1	2.6	0.1	4.57	.004	>	2.0	0.1	2.2	0.1	2.2	0.1	2.5	0.1	4.95	.002	>
単元計画の作成	2.1	0.1	2.4	0.1	2.4	0.1	2.7	0.1	5.50	.001	>	2.1	0.1	2.4	0.1	2.3	0.1	2.6	0.1	5.10	.002	>
1単位時間の授業の流し方（組み立て方）	2.0	0.1	2.2	0.1	2.3	0.1	2.5	0.1	4.76	.003	>	1.8	0.1	2.2	0.1	2.3	0.1	2.5	0.1	8.60	.000	> / >
教材に関する知識	2.3	0.1	2.4	0.1	2.5	0.1	2.6	0.1	2.28	.079		2.3	0.1	2.5	0.1	2.4	0.1	2.6	0.1	2.10	.100	
効果的な場づくり	2.5	0.1	2.6	0.1	2.6	0.1	2.7	0.1	0.94	.424		2.4	0.1	2.6	0.1	2.5	0.1	2.8	0.1	3.58	.015	>
運動の師範	1.8	0.1	2.1	0.1	2.3	0.1	2.6	0.1	10.20	.000	> / >	1.8	0.1	2.0	0.1	2.3	0.1	2.6	0.1	12.01	.000	> / >
児童の意欲の持続	1.7	0.1	2.2	0.1	2.3	0.1	2.3	0.1	5.78	.001	>	2.0	0.1	2.2	0.1	2.2	0.1	2.2	0.1	1.14	.332	
学習評価	2.7	0.1	2.8	0.1	2.9	0.1	2.9	0.1	0.75	.526		2.8	0.1	2.6	0.1	2.8	0.1	2.9	0.1	1.44	.232	
教員の不足	2.3	0.1	2.3	0.1	2.4	0.1	2.7	0.1	3.03	.030	>	2.3	0.1	2.4	0.1	2.4	0.1	2.7	0.1	2.84	.047	>
関連する副読本の不足	2.3	0.1	2.4	0.1	2.4	0.1	2.7	0.1	3.08	.028	>	2.3	0.1	2.3	0.1	2.4	0.1	2.7	0.1	2.98	.032	>
関連する参考書や雑誌の不足	2.4	0.1	2.4	0.1	2.4	0.1	2.6	0.1	0.95	.417		2.4	0.2	2.4	0.2	2.5	0.2	2.6	0.1	0.78	.508	

共変数：性、教職経験年数 SE：標準誤差
群：体育部×体育主任有×研究会参加あり 群：体育部×（体育主任有or 体育主任無）×研究会参加が両方「あり」ではない 群：体育部以外×体育主任有 群：体育部以外×体育主任無

「多様な動きをつくる運動（遊び）」で取り上げやすい動きとして、「体を移動する運動（遊び）」は、取り上げやすさに違いがなかったものの、それ以外では、体育指導に関する高い力量を有する教員に比べて、体育指導に関する力量が高くはない教員が取り上げにくいと考える動きが多く確認された（表2）。このことは、群の教員のような体育への高い力量を有する教員以外の教員が取り上げにくいと考える基本的な動きが存在すること、そして、群や群のような教員に対しても支援する必要性を示唆している。

表2 体育指導に関する力量別にみた「多様な動きをつくる運動（遊び）」で取り上げやすい動き

質問項目	体ほぐしの運動（遊び）								多様な動きをつくる運動（遊び）													
	群 n=30		群 n=54		群 n=46		群 n=187		群 n=30		群 n=54		群 n=46		群 n=187							
	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE						
回る	3.3	0.1	3.2	0.1	3.2	0.1	3.0	0.0	2.81	.040	>	3.2	0.1	2.9	0.1	3.0	0.1	2.9	0.1	1.59	.192	
体のバランスをとる運動（遊び）	3.1	0.1	3.0	0.1	3.0	0.1	2.8	0.1	1.84	.140		3.4	0.1	3.0	0.1	3.0	0.1	3.0	0.1	3.00	.031	>
座る（立つ）	3.2	0.1	3.1	0.1	3.0	0.1	2.9	0.1	2.12	.097		3.1	0.1	2.8	0.1	2.9	0.1	2.7	0.1	2.27	.081	
渡る	3.2	0.1	3.0	0.1	2.9	0.1	2.8	0.1	2.78	.043	>	3.4	0.1	3.1	0.1	3.0	0.1	2.8	0.1	6.89	.000	> / >
バランスを保つ	3.4	0.1	3.2	0.1	3.2	0.1	3.0	0.1	3.05	.029	>	3.5	0.1	3.1	0.1	3.0	0.1	2.8	0.1	7.06	.000	>
通う	3.2	0.1	2.9	0.1	2.9	0.1	2.9	0.1	2.43	.066		3.5	0.1	3.0	0.1	2.9	0.1	2.9	0.1	6.30	.000	>
歩く	3.2	0.1	3.2	0.1	3.2	0.1	3.2	0.1	0.11	.952		3.3	0.1	3.0	0.1	3.0	0.1	3.0	0.1	2.27	.080	
走る	3.4	0.1	3.2	0.1	3.2	0.1	3.3	0.1	1.59	.192		3.5	0.1	3.2	0.1	3.2	0.1	3.1	0.1	4.82	.003	>
体を移動する運動（遊び）	3.5	0.1	3.3	0.1	3.2	0.1	3.3	0.1	1.25	.292		3.5	0.1	3.1	0.1	3.0	0.1	2.9	0.1	7.81	.000	>
はねる	3.2	0.1	3.1	0.1	3.1	0.1	3.2	0.1	1.13	.338		3.5	0.1	3.2	0.1	3.2	0.1	3.0	0.1	4.14	.007	>
登る	2.8	0.1	2.8	0.1	2.7	0.1	2.6	0.1	0.98	.401		3.0	0.1	2.8	0.1	3.0	0.1	2.9	0.1	0.68	.565	
下りる	2.8	0.1	2.8	0.1	2.8	0.1	2.6	0.1	1.63	.183		3.3	0.1	3.0	0.1	3.0	0.1	3.0	0.0	3.29	.021	>
一定の速さでのかけ足	2.8	0.1	2.9	0.1	3.1	0.1	2.9	0.1	0.87	.455		3.2	0.1	3.1	0.1	2.9	0.1	2.8	0.0	4.20	.006	>
人や物を押す	3.4	0.1	3.0	0.1	2.9	0.1	2.7	0.1	7.16	.000	>	3.2	0.1	3.1	0.1	2.9	0.1	2.8	0.0	4.20	.006	>
力試しの運動（遊び）	3.5	0.2	2.9	0.1	2.9	0.1	2.7	0.1	7.42	.000	>	3.4	0.1	3.0	0.1	2.9	0.1	2.9	0.1	6.57	.000	>
人を運ぶ	3.3	0.2	2.7	0.1	2.7	0.1	2.6	0.1	5.56	.001	>	3.4	0.1	3.0	0.1	2.9	0.1	2.9	0.1	6.57	.000	>
人を支える	3.0	0.1	2.6	0.1	2.6	0.1	2.5	0.1	2.84	.039	>	3.1	0.1	3.0	0.1	2.8	0.1	2.8	0.1	2.84	.038	>
物にぶら下がる	3.0	0.1	2.7	0.1	3.0	0.1	2.9	0.1	1.72	.163		3.1	0.1	3.0	0.1	2.8	0.1	2.8	0.1	2.84	.038	>

共変数：性、教職経験年数 SE：標準誤差
群：体育部×体育主任有×研究会参加あり 群：体育部×（体育主任有or 体育主任無）×研究会参加が両方「あり」ではない 群：体育部以外×体育主任有 群：体育部以外×体育主任無

(2) 指導資料の作成

指導作成に向けた熟練体育教員と一般教員における「体づくりの運動遊び」の授業の特徴
熟練体育教員と一般教員の運動学習場面の時間には有意差が認められず、熟練体育教員の学

(3) 作成した指導資料の検証

作成した指導資料を用いて介入教員が実施した「体づくりの運動遊び」の授業と、上記(2)の熟練体育教員の授業における体育授業場面、身体活動量、フープ回しの習得状況との比較を行い、作成した指導資料の有用性について検討した。その結果、熟練体育教員と介入教員のマネジメント場面の時間には有意差が認められず、学習指導場面の時間は介入教員の方が長く効果量は大を示し(表7)、MVPAは介入教員が高値を示した(表8)。一方、フープ回しの習得状況については、性に関わらず、熟練体育教員クラスの児童の方が単元後の習得が進んでいた(表9)。

表7 熟練・介入教員の体育授業場面の

授業場面	教員	授業時間				M	SD	t	p	d
		1限目	2限目	3限目	4限目					
時間(分)										
学習指導	熟練体育教員	9:31	5:27	10:22	10:52	9:06	2:28	-1.31	.247	-.81
	介入教員	12:57	10:45	9:16	10:51	10:55	1:31			
認知学習	熟練体育教員	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00			
	介入教員	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00			
運動学習	熟練体育教員	30:49	31:45	30:44	30:11	30:52	0:39	2.02	.117	1.24
	介入教員	26:41	28:47	30:38	29:56	29:09	1:51			
マネジメント	熟練体育教員	4:40	7:48	3:53	3:56	5:03	1:51	0.04	.974	.02
	介入教員	5:23	5:28	5:06	4:12	4:56	0:36			
出現頻度										
学習指導	熟練体育教員	6	5	7	7	6.3	1.0	-0.56	.598	-.35
	介入教員	6	9	6	6	6.8	1.5			
認知学習	熟練体育教員	0	0	0	0	0	0			
	介入教員	0	0	0	0	0	0			
運動学習	熟練体育教員	8	9	8	8	8.3	0.5	-0.65	.537	-.40
	介入教員	8	9	8	9	8.5	0.6			
マネジメント	熟練体育教員	8	8	6	6	7.0	1.2	-1.00	.357	-.61
	介入教員	9	8	7	7	7.8	1.0			

表8 熟練・介入教員の身体活動量

	単元全体					
	熟練体育教員クラス (n=28)		教員介入クラス (n=28)		F	p
	調整平均	SE	調整平均	SE		
SB(分)	3:13	0:16	3:02	0:17	0.21	.649
	3:15	1:17	2:55	1:35		
LPA(分)	23:46	0:33	21:24	0:35	8.26	.006
	23:47	3:24	21:20	2:14		
MVPA(分)	18:00	0:41	20:34	0:42	6.43	.015
	17:58	4:07	20:45	2:57		
歩数(歩)	2638.8	65.8	2297.6	64.6	14.88	.000
	2641.6	385.7	2337.0	344.2		

共変量：性、身長、体重
SB:座位行動 LPA:低強度活動 MVPA:中高強度活動
下段：平均、標準偏差

表9 熟練・介入教員のフープ回しの動作得点

	男子				女子								
	熟練体育教員		介入教員 (n=15)		熟練体育教員		介入教員 (n=10)						
	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE	調整平均	SE					
共分散分析	2.8	0.1	2.4	0.1	4.86	.036	共分散分析	3.1	0.2	2.6	0.2	4.29	.049
単元前	2.3	0.5	1.9	0.7			単元前	2.5	1.0	2.5	0.7		
単元後	3.0	0.7	2.3	0.7			単元後	3.2	0.8	2.6	0.8		

共変量：単元前の動作得点
単元前後の数値：平均、標準偏差

以上の結果から、作成した指導資料は、学習指導場面の確保とマネジメント場面の時間の減少、MVPAの確保に寄与する可能性があるものの、フープ回しの習得という学習成果の観点に関しては十分とはいえず、指導資料の課題が明らかとなった。

そして、上記(1)から(3)の結果を踏まえ、教員の特性ごとの実感・実態に応じた「体づくりの運動遊び」の授業実践を支援する指導資料は、体育指導に関する力量が高くはない教員の授業を、より良い体づくり運動系の授業とする方途のひとつと考えられる。一方で、フープ回しの習得といった学習成果については、課題が残り、再考する必要がある。

引用文献

加登本仁, 松田泰定, 木原成一郎, 岩田昌太郎, 徳永隆治, 林俊雄, 村井潤, 嘉数健悟(2010) 体育授業の悩み事に関する調査研究(その1) - 教職経験に伴う悩み事の差異を中心として - . 学校教育実践学研究, 16 : 85-93 .

加登本仁, 松田泰定, 木原成一郎, 岩田昌太郎, 徳永隆治, 林俊雄, 村井潤, 嘉数健悟(2011) 体育授業の悩み事に関する調査研究(その2) - 悩み事の解決方法を中心として - . 学校教育実践学研究, 17 : 169-174 .

金善鷹, 松浦義行(1988) 幼児及び児童における基礎運動技能の量的変化と質的变化に関する研究, 走, 跳, 投運動を中心に. 体育学研究, 33(1): 27-38 .

宮丸凱史, 中村和彦, 松浦善行(1989) 幼児の跳動作の発達と評価に関する研究, 体育科学. 17 : 66-76 .

中村和彦, 武長理栄, 川路昌寛, 川添公仁, 篠原俊明, 山本敏之, 山縣然太郎, 宮丸凱史(2011) 観察的評価法による幼児の基本的動作様式の発達. 発育発達研究, 51 : 1-18 .

日本学術会議(2017) 子どもの動きの健全な育成をめざして: 基本的動作が危ない. <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t245-1.pdf>(参照日:2024年6月15日)

篠原俊明, 長野康平, 中村和彦(2021) 児童の両足回転跳び動作の観察的評価方法に関する研究: 小学校低学年・中学年の動作を対象として. 日本幼少児健康教育学会誌, 7(1): 5-15 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 篠原 俊明、長野 康平、中村 和彦	4. 巻 7
2. 論文標題 児童の両足回転跳び動作の観察的な評価方法に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本幼少児健康教育学会誌	6. 最初と最後の頁 5～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34392/healtheduchi1d.7.1_5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 篠原 俊明、長野 康平、野井 真吾、中村 和彦	4. 巻 9
2. 論文標題 熟練体育教員と一般教員における同一単元計画を用いた際の体づくり運動系の体育授業場面の比較	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本幼少児健康教育学会誌	6. 最初と最後の頁 53～61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 篠原 俊明、長野 康平、野井 真吾、中村 和彦	4. 巻 40
2. 論文標題 小学校低・中学年の「体ほぐしの運動（遊び）」と「多様な動きをつくる運動（遊び）」の指導における小学校教員の意識・教員の体育に関する専門性の違いによる検討 -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 体育科教育学研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 篠原俊明、長野康平
2. 発表標題 同一単元計画を体育への関心が異なる教師が実施した際の体育授業の特徴に違いはあるか？：「体づくりの運動遊び」の授業について
3. 学会等名 日本幼少児健康教育学会 第41回大会【秋季：山陽小野田大会】
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Toshiaki Shinohara, Kohei Nagano
2. 発表標題 Differences between skilled PE teachers and general teachers when using the same lesson plan: Characteristics of physical activity
3. 学会等名 The 2021 International Conference for the 9th East Asian Alliance of Sport Pedagogy (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kohei Nagano, Toshiaki Sinohara
2. 発表標題 Differences between skilled PE teachers and general teachers when using the same lesson plan: Examination from teacher behavior and evaluation of children
3. 学会等名 The 2021 International Conference for the 9th East Asian Alliance of Sport Pedagogy (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関